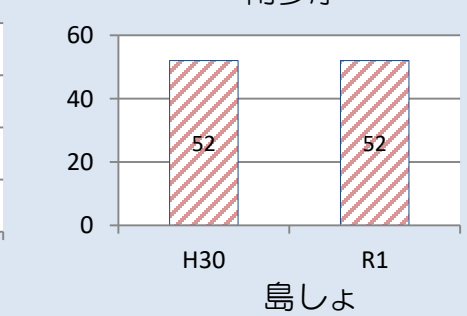
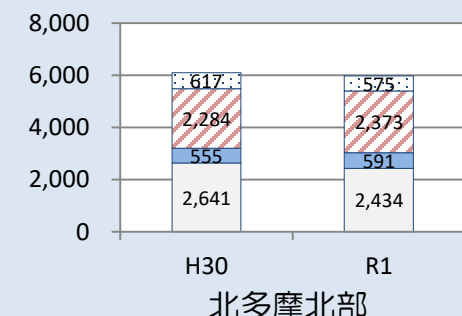
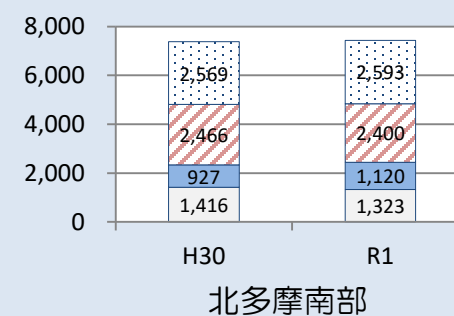
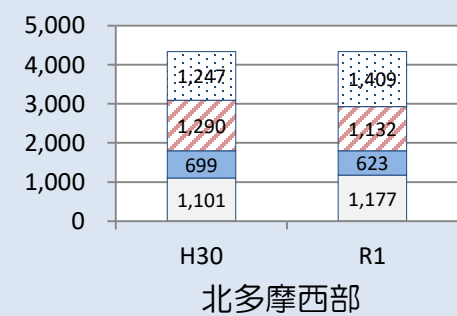
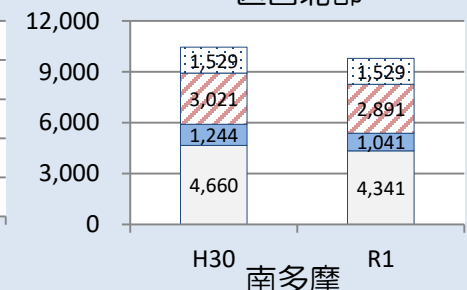
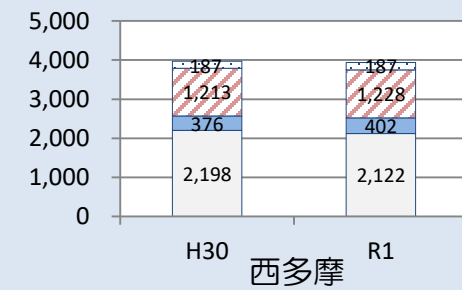
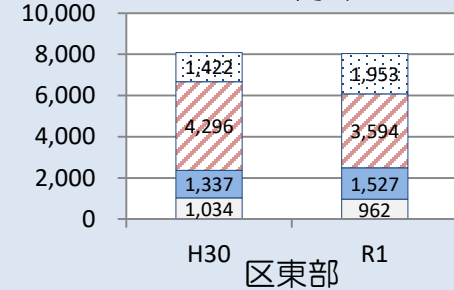
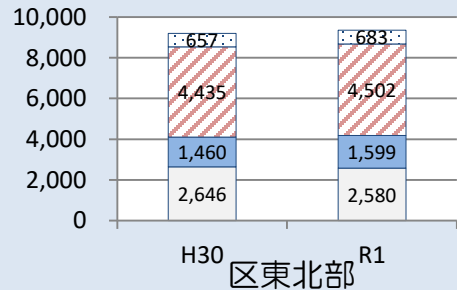
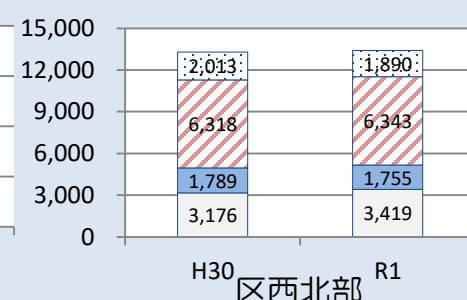
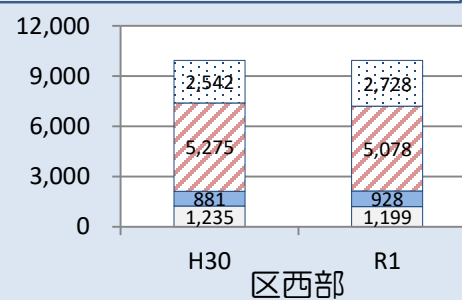
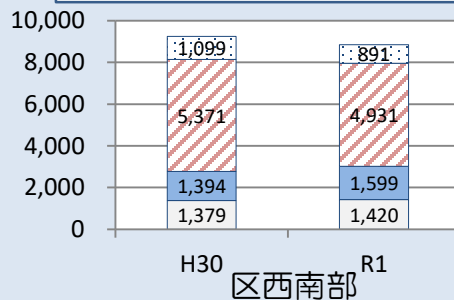
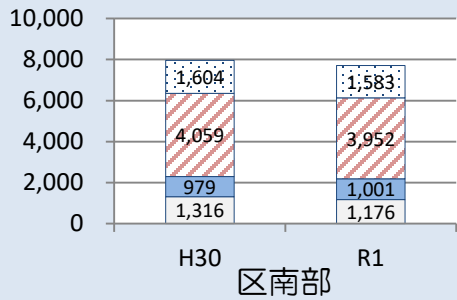
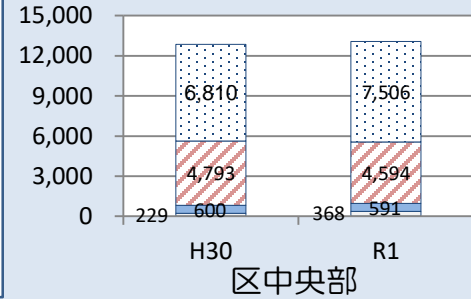
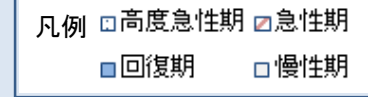


<結果の概要(東京都)>

○平成30年度結果に比べ、病床数全体は、959床減

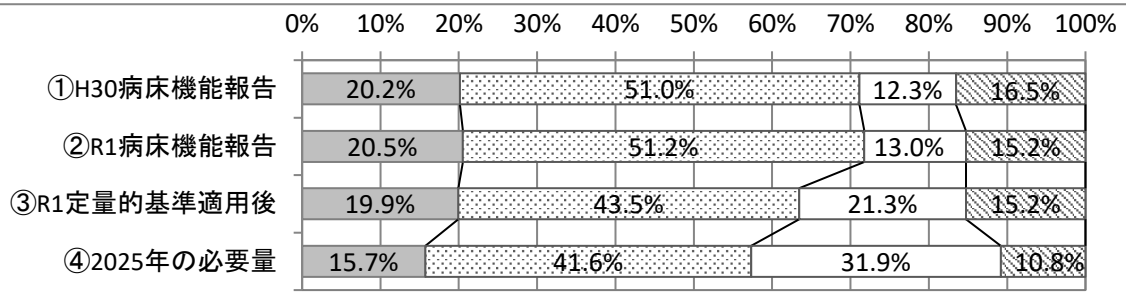
- (機能別増減) 高度急性期機能 818床増
- 急性期機能 1,803床減
- 回復期機能 536床増
- 慢性期機能 510床減

(※) 病床機能報告は、医療機関がその医療機関の有する病床が担っている医療機能を自主的に選択し、病棟単位で報告したものです。各グラフにおいて、未回答の医療機関、回答内容に不備のあるもの及び担っている機能において「休棟等」を選択したのものについては、含まれていません。



グラフの構成内容

構想
区域
名



■高度急性期 □急性期 □回復期 ▨慢性期

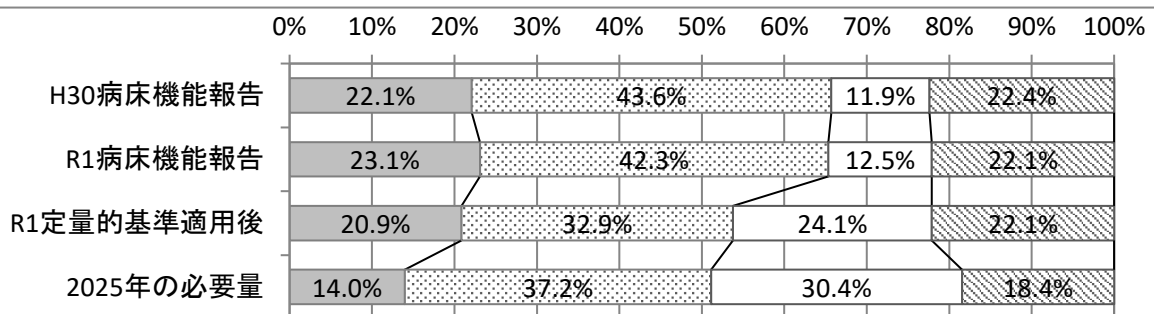
- ①「H30病床機能報告」は、平成30年度病床機能報告において、都内各医療機関が報告した医療機能別の病床数を集計し、構成割合で表した数値
- ②「R1病床機能報告」は、令和元年度病床機能報告において、都内各医療機関が報告した医療機能別の病床数（速報値）を集計し、構成割合で表した数値
- ③「R1定量的基準適用後」は、都内各医療機関が報告した令和元年度病床機能報告結果（速報値）に都における「定量的な基準（※）」を適用し、医療機能別の病床数を再分類し構成割合で表した数値
- ④「2025年の必要量」は、東京都地域医療構想（平成28年7月）において推計した2025年の病床数の必要量を医療機能別に構成割合で表した数値

（※）定量的な基準

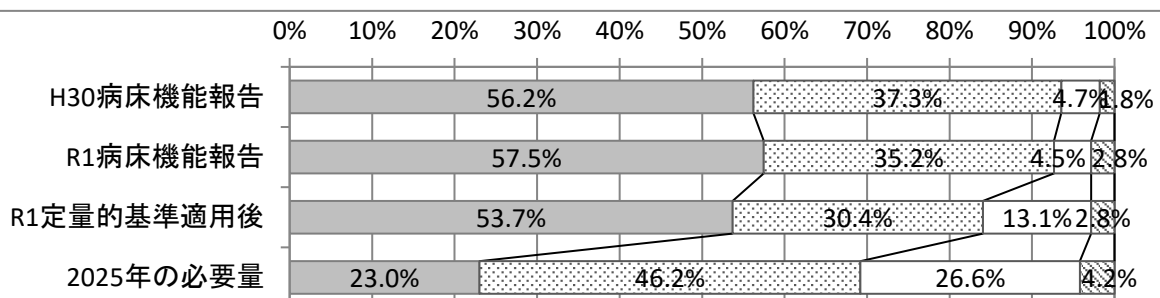
厚労省からの通知（平成30年8月16日医政地発0816第1号）により、各都道府県が地域の実情に応じて設けることとされている基準。

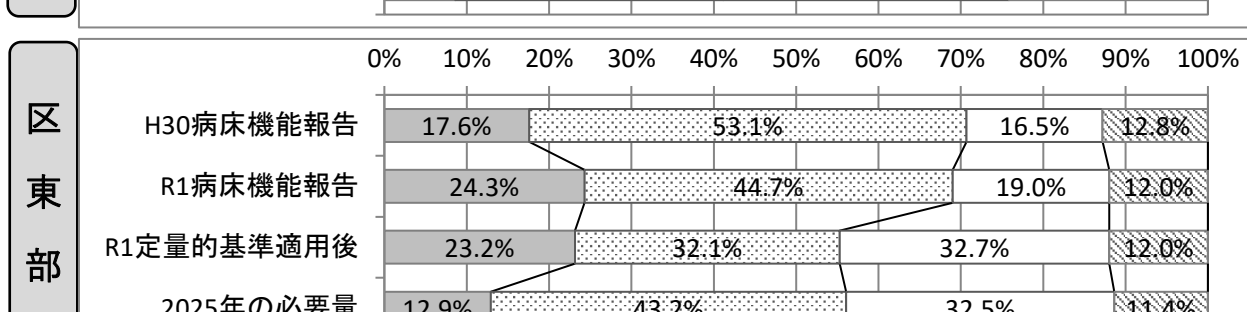
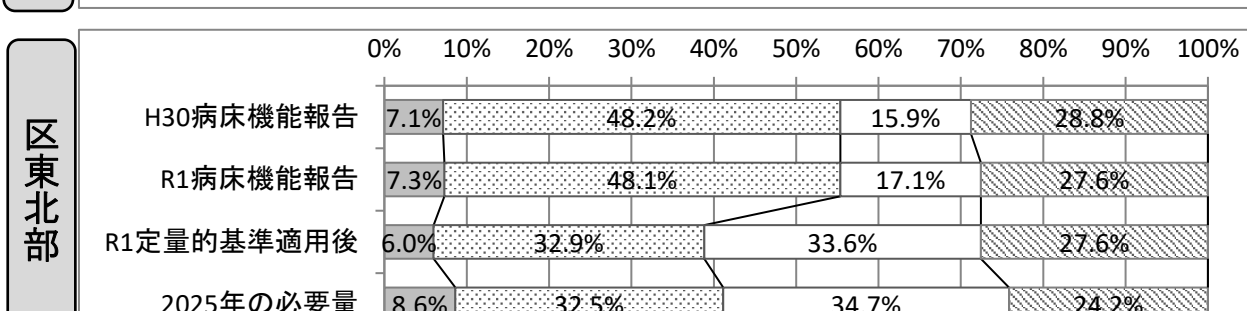
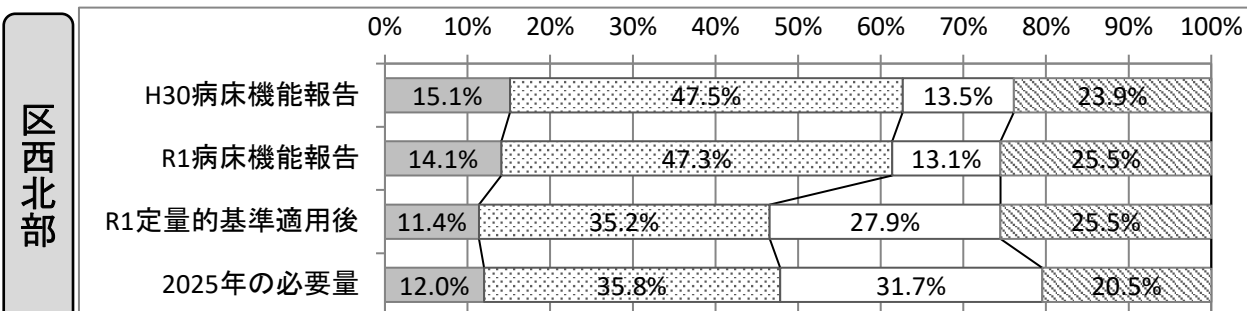
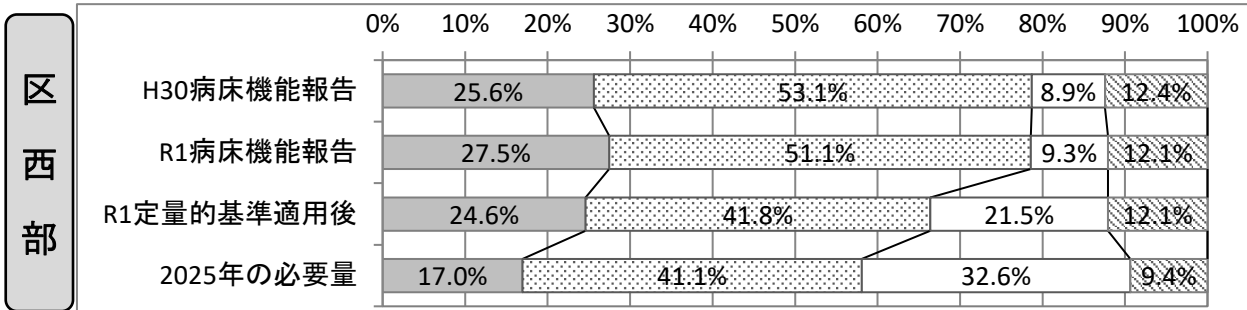
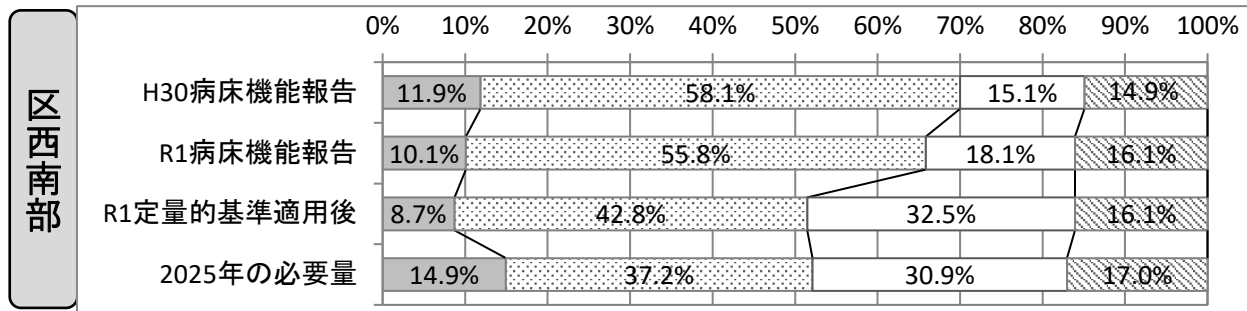
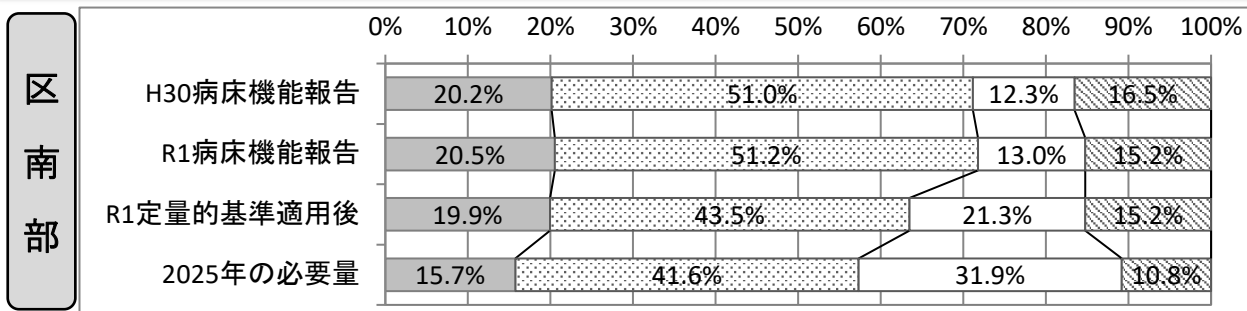
都では、「全身麻酔又は化学療法を1年間に1床あたり1回(日)以上実施しているか否か」を基準として採用している。

東
京
都

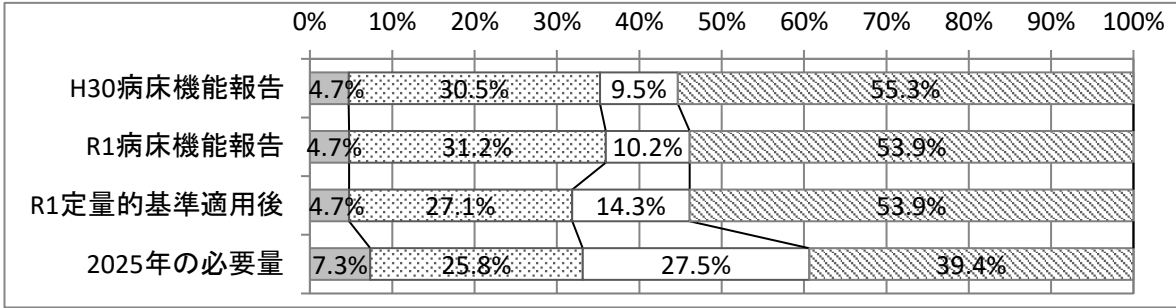


区
中
央
部

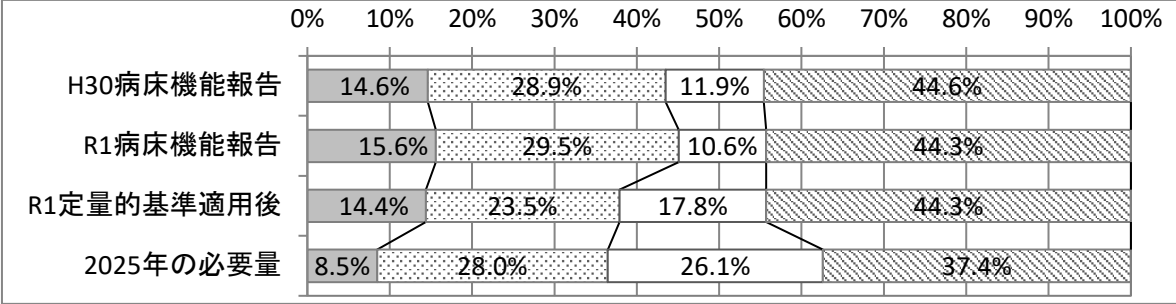




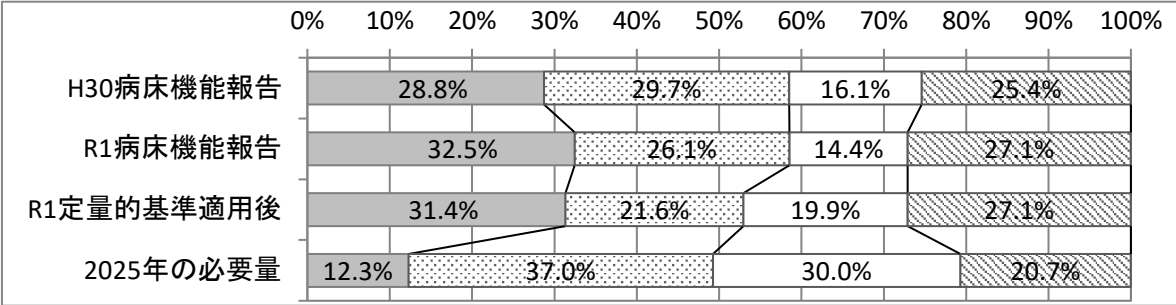
西多摩



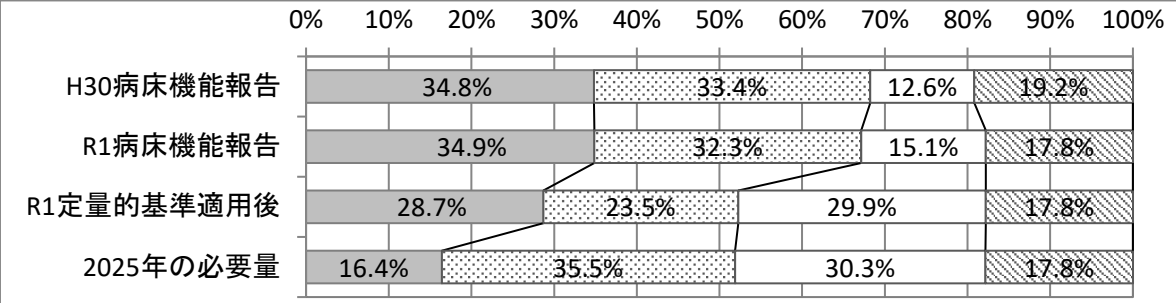
南多摩



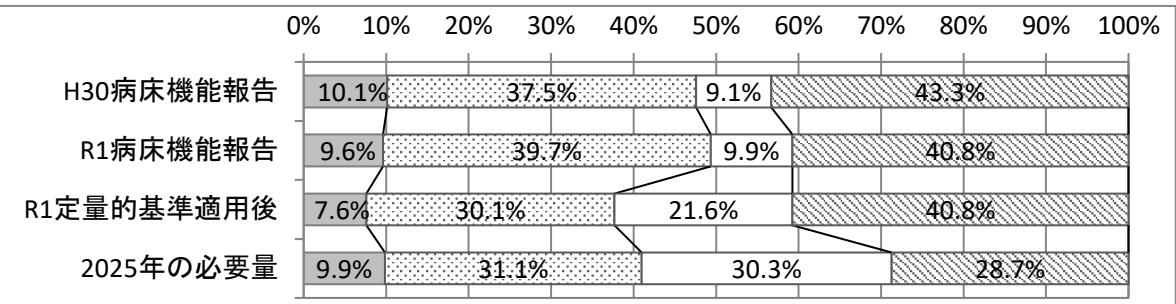
北多摩西部



北多摩南部



北多摩北部



島しょ

